

## 人材育成・確保に関する研究

### ②他出子と出身者・世帯の関わりと連携の可能性（2016年～2019年）

#### ◇概要

人口減少が加速し、地域活動の継続が難しくなる地区が増加しています。地域活動の担い手を確保する手段として、全国では移住促進によるU・Iターンなど定住人口の増加策が盛んに行われてきました。移住者の増加は手法の一つではあるものの、全国的に人口が減少する中で、自治体間に移住者の奪い合いが発生しており、移住者の獲得も年々困難になりつつあります。

国や自治体では、地域に継続的に関わる人々を「関係人口」と称して、将来的な移住も視野に入れた各種施策が展開され、近年は外部人材についての関心が高まっています。

#### ◇現状と課題

これまで地域住民の暮らしや地域活動に関わり、地域社会全般に影響を及ぼしてきた存在として「他出子」があります。地域には居住していないものの、他出子による他出先から実家へのサポートや地域活動への参加などがこれまでも恒常的に行われてきました。本研究では、他出子の実態把握を行うとともに、連携・協働の可能性について考察をしていきます。

#### ◇研究方法

人的資源の把握及び連携・協働の可能性を整理するために、以下の研究項目を実施しました。

- 島根県内外における他出者の把握手法の開発
- 地域住民に対しての他出者との関わり方(頻度・生活サポート)に関する実態把握
- 地域運営における地域と他出者との連携・協働に向けての検討
- 他出者の価値への理解向上とその把握手法の利用拡大に向けての検討

#### ◇研究結果と成果

集落基本情報調査からは、県全体でも3割以上、小規模化の進んだ集落では全体の約半数において集落外からの集落活動への参加が明らかになりました。参加者の属性では半数以上が他出子によって支援されており、活動内容は草刈りから寄り合いへの参加まで多岐にわたるものでした。しかし、県・市町村によるこのような他出子との関係性の強化への支援は十分ではありません。

他出子の貢献を把握する手法である「T型集落点検」からは、他出子の分布は広範囲に及ぶものの、近距離に集中していることがわかりました。また、近隣世帯への支援、災害時の支援、同級生ネットワークの存在、また出身地域から他出子への「逆支援」も明らかになりました。

今回の調査地区では、T型集落点検を一つのきっかけとして、他出子も巻き込んだ地域づくりが少しずつではあるが展開しつつあります。しかし、そこからの蓄積はまだ十分とはいえず、今後も取組を継続させるとともに、他地域での応用も視野に入れた調査研究が必要です。

今後も中山間地域で安心して暮らし続けていくためには、他出子の存在を捉え直し、集落活動に応じて他出子との連携・協働を強化していくことが重要です。また、関係人口との交流拡大や移住定住の促進に向けても他出子・元他出子(Uターン者)の役割が期待されます。

今後の展開として、①関係人口の整理、②他出子の把握及び追跡調査、③他出子と協働した地域づくりの実証実験を通して、他出子と協働した地域づくり支援手法の整理、他出子の持つ権限を地域で有効に利活用していくための促進策の開発が非常に重要になると考えられます。

# 研究成果データ

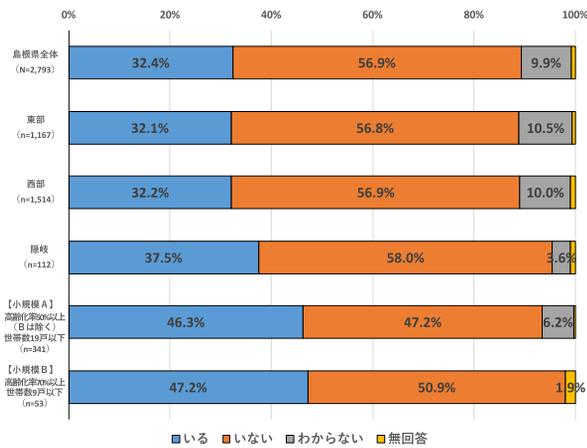


図1. 集落外からの集落活動への参加状況 (2018年：島根県集落基本情報調査)

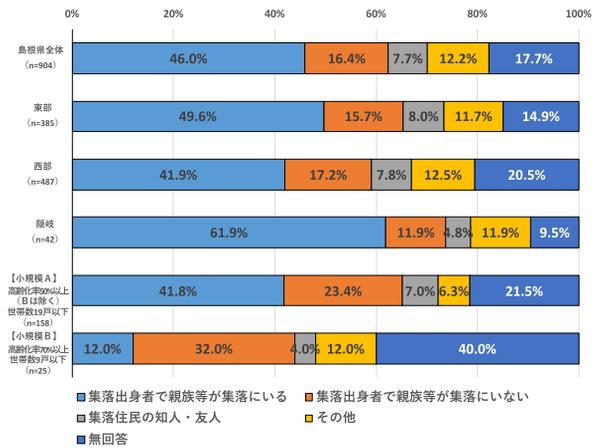


図2. 集落外からの集落活動への参加者属性 (2018年：島根県集落基本情報調査)

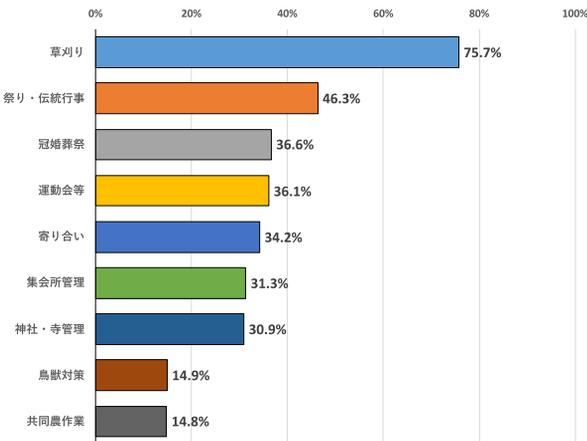


図3. 集落外からの参加がみられる主な活動内容 (2018年：島根県集落基本情報調査)

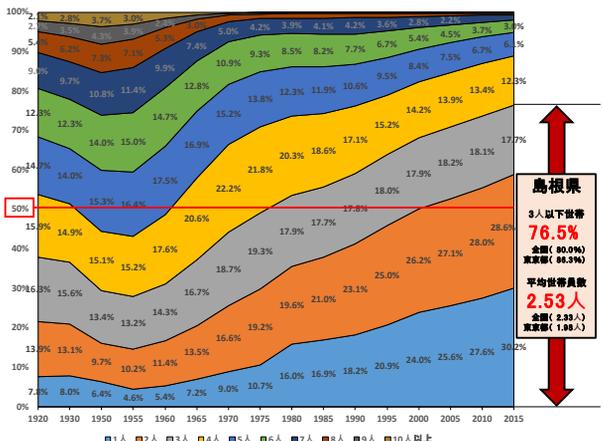


図4. 平均世帯数の推移 (島根県) (各年：国勢調査)

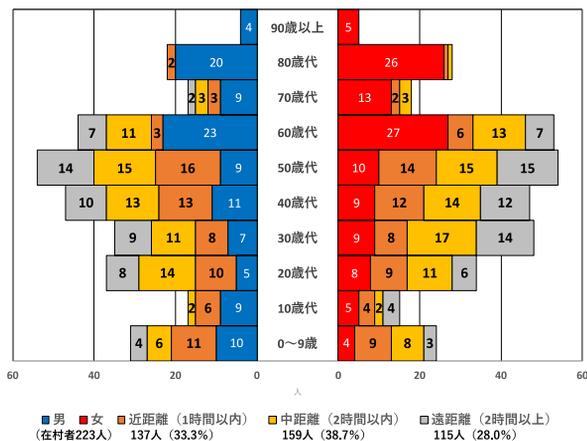


図5. 飯南町谷地区の在住者と全他出者 (2018年：T型集落点検)

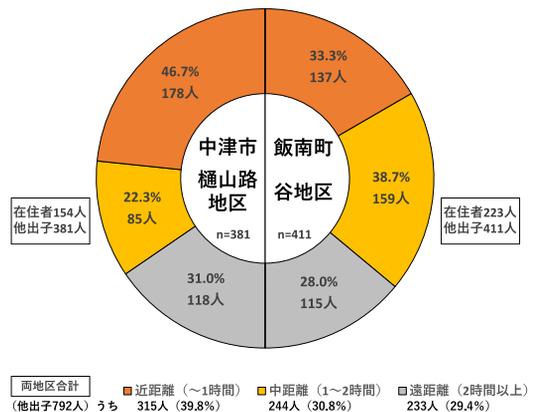


図6. 2地区の他出子分布状況 (2018年：T型集落点検)

## ◇連絡・問い合わせ先

島根県中山間地域研究センター 企画情報部 地域研究科  
 担当 主任研究員 東良太  
 〒690-3405 島根県飯石郡飯南町上来島1207番地  
 TEL:0854-76-3846 FAX:0854-76-3758  
 E-mail: azuma-ryota@pref.shimane.lg.jp HP: http://www.pref.shimane.lg.jp/chusankan/